

「人生の価値」

1. 「おまけの人生」

右掲は、広島の木原先生のデイリーメッセージに書かれてあった言葉です。1月23日に妻が急死して心に空虚感が漂っていた時に頂いたものです。「人生の価値」とは何かを考え込んでいた時でした。「誰かのため」という事は、非常に重要な事があります。この空虚感から立ち直るキッカケになる言葉でした。

『誰かのために生きてこそ
人生の価値がある』

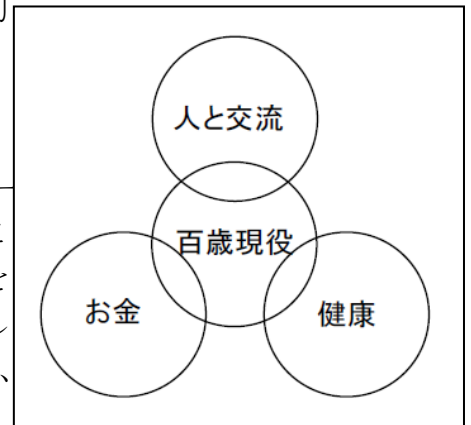
出典：広島の木原さんの記事より

私は、60才になった時、母から「60才からはおまけの人生や、しっかり、社会に貢献しなさい」と教えられました。これ以後、「おまけの人生」という事で人生設計をして来ました。途中で、リーマン・ショックのあおりで三男が入社してシステム事業を立ち上げるという事が起こって、「誰かのため」がより明確になったのです。お客様のシステムをアウト・ソーシング的に運営をさせて頂く仕事を頂いて三男が技術を磨いていますので喜んでします。

しかし、今年7月に満65才になり、フル年金になるという第2ステージに変わる際に、突然、妻が急死したのです。当然、運命ですから受け入れる必要があり、現実に残された自分は、元気に人生を全うすべく仕事に向かっているのですが、これから、少しは時間的な余裕が出来るかなという時なので、「誰かのため」を再設計する必要が出てきました。計画的には、借金もほぼ完済へ向かうだけに、今後のあり方を考える必要があるのです。

2. 第1ステージの状況

仮に、60～65才の期間を第1ステージとすると、右の図は、年初に発信した364号(2014年の抱負)に掲載したものです。まず、「健康」と「お金」が充実する事がベースになるので、健康という意味では、2012年4月からFacebookで公開ダイエットに踏み切り、ネットでカロリーを調べてレコーディング・ダイエット法で、総カロリーを算出して、1か月に1kgの減量を目指し、これに、ウォーキングによるカロリー消費を加えて「食事」と「運動」という両面でダイエットを行い、当時、94kgほどあった体重が80kgをした回ようになりました。さらに、ジャンカラでシニア会員(30分100円)になって、午後、時間を持て余すようになったら歌いに行くようにして精神面、工夫する面、ボイス・トレーニングによるダイエット効果も加えています。



「お金」の面では、住宅・立体駐車場や事務所およびクルマなどのローンは完済して、例えば、自宅・立体駐車場と事務所の管理費は、月4万円で済むようになっています。自宅・駐車場・事務所を賃貸で借りているとすると月20万円は下らない費用がかさみます。お蔭で負担感が少なくなっています。その上、年金も60才から報酬比例部分と基金部分を頂いていますので、個人的にもポケットが豊かな感じになっています。この7月に満65才になるので基礎年金の部分も頂けるようになり、状況はさらによくなります。

この「健康」と「お金」というインフラ部分がしっかりするように努力をした上で、「人と交流」ということにもチャレンジして来ました。2008年に大阪商工会議所に加盟し、2012年に大阪府中小企業家同友会(同友会)に加盟しました。商工会議所では「エキスパート」に登録し、さらに、「ミラサポ」にも登録して、ご依頼案件のお仕事も頂いています。また、商工会議所南支部の「経営サロン」や同友会の例会にも参加して交流の機会をつくり、Facebookも始めて300名近い友達が出来ています。

3. 第2ステージの再設計

これから、65～70才の第2ステージが始まろうとしています。右の図は、爺さんと思しき方が奥さんと思しき方に歌を披露している様子ですが、実は、我が家でもパソコンでカラオケを再生してマイクは使わないですが歌っています。この絵がピッタリなのですが、肝心の妻がいなくなっただけです。妻には迷惑な歌(騒音)だったかも知れませんが、文句も言わずに聞いてくれていました。その聞いてくれる妻がいなくて、カラオケも健康だけが目的になってしまったのです。



やはり、聞いてくれる相手って必要ですね。近所に独居のお婆さんがおられるのですが、猫を相手に語りながら過ごしておられます。その気持ちが分かるようになりました。暖かい血の流れている猫の温もりがお婆さんの唯一の生き甲斐であり、その為に、猫に餌を与えておられるのだらうと思います。私の場合、幸いなことに三男が同居してくれていますので、独り立ちするまでは寂しくないと思いますが、やはり、妻という存在の有難味がよく分かるようになりました。が、時すでに遅しです。

じゃ、第2ステージをどのように設計するかですが、「誰かのため」には、当然、三男の存在があります。三男が自立できるように支援することがメインになります。贅沢な話ですが、やはり、人生には女性の存在も重要です。今さら後添いとは思いませんが、会社が順調に育って人を雇える位になったら女子事務員を採用して「華」になって欲しいと思っています。もう、孫のような年代の方が対象となるので、経営者としてよりも「爺さん」的な立ち位置で見守りたいと思います。若い女性の好奇心について行けるように感性を磨いて行きたいと思っています。

4. 「誰かのために」

よく、「人の為」は「人」+「為」=「偽」と書くと言いますが、しかし、根底には「誰かのために」が流れているのです。お蔭様で年金世代になりますので、もらえる年金を有効に使いたいと思います。その有効は「誰かのため」なのです。先ほど、三男のためにと書きましたが、その為には、三男のお客様のために生きることが重要になります。幸いにも「経験」が物をいう職種なので、これまでの「経験」を十分に活かしてお客様の役に立ちたいと思います。

「三男のため」「お客様のため」とカッコつけていますが、その他にも、子供たち、その孫たちのためという平凡な爺さんの気持ちもあります。子供たち、孫たちが希望をもって生きられるように間接的に支援できるようにしたいと思います。その為には、まず、先立つもの、すなわち、お金も必要になります。年金の他に、やはり、会社からも報酬を得て、その財源にしたいと思います。私たちの世代でもクルーズ旅行に出かける方もいらっしゃると思いますが、妻もいないので、そういう時間と金の使い方を選択することはないと思います。

カッコつけた事を書いています。私は、トヨタ系販売店時代に物流改善プロジェクトでトヨタ本体の指導者に直接指導してもらった経験があります。その指導者の方々から学んだコンサルタント像は「禅宗のお坊さん」なのです。昔のお坊さんは庵を組んで自給自足が原則だったので、自給自足だからこそ、殿様であろうが大家の旦那であろうが、おもねる事なく自分の思うことを発することができたのです。つまり、「守り」ではなく「攻め」で生きることができたのです。ようやく、そういう状況になりつつありますので楽しみです。